（1）　明治20年創刊　第40844号　（明治25年3月28日第三種郵便物承認）　THE JOMO SHINBUN　2009年（平成21年）1月24日（土曜日）　（日刊）

高商 センバツ 前商

31年ぶり

県勢2校に〝切符〟

第八十一回選抜高校野球大会（三月二十一日から十二日間・甲子園）の出場三十二校を決める選考委員会が二十三日、大阪市の毎日新聞大阪本社で開かれ、本県から高崎商と前橋商の二校が選ばれた。県勢がセンバツ切符を手にしたのは二〇〇七年の桐生第一以来二年ぶりで、二校同時出場は一九七八年の第五十回大会で前橋・桐生が選ばれて以来、三十一年ぶり。

関連記事 18 19 21 22 23面

3年ぶり3度目のセンバツ出場を決め大喜びの高崎商ナイン

12年ぶりのセンバツ出場が決まり兼島兼実主将を胴上げする前橋商ナイン

センバツ出場は高崎商が三年ぶり三度目、前橋商は十二年ぶり三度目。春夏通算では高崎商が十二度目、前橋商が七度目の甲子園となる。両校とも秋の関東大会で四強入りし、センバツ切符獲得が有力視されていた。

県代表し堂々と

大沢正明知事の話　二校そろっての出場は大変な快挙であり、県民に勇気と希望を与えてくれた。県を代表し、堂々と戦ってきていただきたい。二百万県民は皆さんの活躍をから応援している。

前商の名 全国に

高木改夫前橋市長の話　今年は前橋市にとって記念すべき年。新チームで重ねてきた好成績が甲子園への道を切り開いた。選手一人一人がプレーで前橋商業の名を全国にとどろかせることを期待している。

市民一丸で応援

松浦幸雄高崎市長の話　伝統校の厳しい練習に耐え、市移行という大きな飛躍の年、三十二万市民の夢と希望とともに、若さあふれるプレーで前橋商業の名を全国にとどろかせることを期待している。

両校に吉報が届いたのは、前橋市南町の前橋商では午後二時二十五分ごろ。高野球部員や保護者、OBら約四百人が集まり、正面玄関近くで吉報を待った。同三時四十五分ごろ、校舎壁面にセンバツ決定の垂れ幕が掛けられると大きな拍手と歓声が起こり、続いて松本邦夫校長が出場決定を正式に報告。喜びでいっぱいのナインは胴上げを行い、兼島兼実主将と富岡潤一監督、清水哲也部長が何度も宙を舞った。

県勢は一九九五年の第六十七回大会で前橋工が惜々決勝に進出したが、その後は初戦敗退が続いていた。県勢で四年ぶり、両校に

特製さくら餅を始めました
湯の花饅頭 清芳亭
伊香保温泉入口 ☎0279(20)3939
季節のお菓子 さくら餅

山河遥か

上州・先人の軌跡

□9□

私財投じ女学校再建

第8部 山崎一種二

「富士見中学校・高校」は、東京都練馬区の住宅街にある。約千五百人が学ぶ中高一貫の私立女子校は学校法人山崎学園が運営する。初代理事長は山崎種二である。

種二は証券業が軌道に乗ると、一九四〇（昭和十五）年に山崎学園を設立する。大正後期に創立し、経営が傾いていた「富士見高等女学校」の運営を引き継ぐためだ。

教育界進出のいきさつは『山崎種二―その生涯と事業』にこんな風に描かれている。（山崎さん、あなたは株式の商売でえらく儲けているそうですね。実業で儲けるのはいいが、罪ほろぼしに何か一つやりなさい。それにはこれからの若い人たちのために、教育に金を使ってくれませんか）

種二に話を持ち掛けたのは深井鑑一郎・東京府立四中（現都立戸山高）の校長を四十年も務めた教育界の重鎮。まな弟子、鈴木重は増加に転じた。

のために学校を創設したいと考え、種二に協力を求めた。

当時、種二の次男、嘉治（83）と三男、誠二（81）は、ともに深井が校長を務めた四中に在学していた。そんな関係から深井の要請に応じた。

戦後間もないころの話。女子校の存続が危ぶまれ、東京都教育局から「男女共学校へ改編するよう指導を受けた種二は異を唱えた。

〈こちらは感謝するところがあって、女子の教育のために私財を投じて経営してきているのに、背広姿の種二の温和な表情が見て取れる。

種理事長に就任し、経営を引き継ぐと種二は、私費で新校舎を建設。校長に実績や手腕を評価して深井を迎え、教頭には鈴木を据えた。深井の名声もあり、入学者は増加に転じた。